

伝える過去、つなげる未来

本市では、平和への願いを絶えず次世代へ受け継ぐため、平成8年度からこの事業を実施しています。今年も、市内中学生から10人のピースメッセンジャーが生まれました。

8月9日「長崎原爆の日」長崎平和祈念像前

「命どう宝」を探す旅

団員は、3回に渡る事前研修のなかで同世代との交流や戦跡巡りを通して、沖縄の悲しい過去を学びました。

沖縄市で開催された「おきなわピースフェスタ」では、他市町村の平和大使と議論を重ねながら戦前の空気を体感したり、沖縄戦の戦間経緯を学習しました。

実際に戦跡へ足を運んでみた団員たちは、前田高地や嘉数高地など、こんなにも近くに激戦地が広がっていたことに驚きます。浦和の塔前のデイグガマと前田高地平和の碑では、浦添市民から寄せられたおよそ二万羽の折り鶴を奉納すると共に、平和への祈りを捧げました。

南部戦跡巡りでは、糸満市の平和祈念公園内に昨年3月に建立

された全学徒隊の碑や、魂魄の塔、ひめゆり平和祈念資料館などを訪れ、自らと同年代の少年や少女たちが戦場に駆り出された惨状を知り、心を痛めました。仲西中学校の加藤綾華さんは、戦跡巡りを終えて「自分がこれまで知っていた沖縄戦はほんの一部であったことがわかった」と語り、「命どう宝（命こそ最高の宝）」の言葉の重みを改めて実感したようでした。



嘉数高地公園でのフィールドワーク

浦添市中学生 ピースメッセンジャーたち Peace Messenger



長崎の傷跡を知る

これまで原爆についてあまり馴染みのなかった団員たちは、3泊4日の長崎本研修を通して被爆の実相を学びました。

2日間に渡って行われた「青少年ピースフォーラム」では、「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列したほか、全国から集まった平和大使たちとフィールドワークや話し合いを通して平和の実現について考えました。

また、長崎市内の戦跡や資料館を巡るだけでなく、被爆者が人とする施設「恵みの丘長崎原爆ホーム」にも訪問し、直接被爆者から体験談を聞くことができました。神森中学校の西銘星華さんは原爆の威力の恐ろしさを知ると同時に、「戦争は終わっても被爆者の心や体にはいつまでも傷が残っていることを知った」と深い衝撃を受けたようでした。

事前研修から長崎本研修を通して、浦添中学校の中村野乃さんは、長崎の原爆と沖縄戦の被害状況に違いはあっても、「平和を伝えていきたいと思う気持ちは同じなんだ」と新たな気づきを得ました。

未来へ伝える

長崎から帰ってきた団員は、市長報告会でピースメッセンジャーとして認定され、早速研修で学んだことを伝える活動をはじめます。

8月22日には、浦添国民学校（現在の浦添小学校）の疎開先であった宮崎県日向市の平和交流団を迎え、沖縄戦について発表しました。交流会では伝えるだけでなく、疎開体験者から当時の状況について積極的に聞き取りを行いました。10月9日に行われる浦添市戦没者追悼式では、声をひとつに平和のメッセージを朗読します。

今後も、学校や地域の人たちに平和を伝えていきたいと意気込むメッセンジャーたち。「自らの足を動かして、過去を想像し、言葉だけでは伝わらないことも伝える努力をしたい」と港川中学校の喜納笑生さん。「今回自分が学べたのは伝えてくれる人がいたから。次は僕たちが伝える番だ」と語る浦西中学校の宇根良太さん。

平和への願いを未来へつなげる彼らの旅は、まだじつ々としたばかりです。

まなびフェスタ浦添 2018

人がまちを育み まちが人を育む まなびでつながるまち浦添

誰でも参加できる「まちづくり生涯学習」のイベントとして、「まなびフェスタ浦添」を下記の日程で開催します！

▶開催日：11月3日(土)
▶会場：浦添市でこホール周辺



講座や体験活動、学習発表など、いろんな「まなび」がいっぱい！ぜひ、ご参加ください。



平和について考える
市民参加型ワークショップ開催！
浦添市中学生 平和交流事業報告

▶時間：午後2時～午後3時
▶会場：でこホール市民交流室



◀プログラムや
各種イベント詳細はこちらから
問 市民協働・男女共同参画課
☎(874)5711

第72回 浦添市戦没者追悼式

先の大戦で亡くなられた御霊のご冥福と世界の恒久平和を祈念するため、戦没者追悼式を下記のとおり行います。市民の皆様のご参加をお願いいたします。

▶日時：10月9日(火) 午前10時開式
▶場所：浦和の塔(浦添城跡内)
問 福祉総務課 ☎内線3571

